

【除菌・消臭製品】 比較表

◎：優れている ○：比較対象の中では良い △：比較対象の中では劣っている ×：優れていない

名称 比較項目	 エピクスイ	アルコール系	次亜塩素酸 ナトリウム水溶液	電気分解機能水			二酸化塩素系	植物性除菌消臭剤	ハイパ系除菌消臭剤
				強酸性水	弱アルカリ水	微酸性水			
安全性	◎ 幅広い濃度で安全性が高い	○	△	×	△	○	○ 安全な濃度範囲が狭く安定的な濃度調整が難しい	◎	◎
pH	6.5前後 製成段階で幅広く調整可能	特定出来ず	8.6~9.5	2.7以下	7.6~8.5	5.0~6.5	6.5~6.8 製造段階でほぼ特定・調整困難	特定出来ず	特定出来ず
濃度	30~400ppm 製成段階で幅広く調整可能 誰でも簡単に希釈調整可能	アルコール濃度60~90%が多い 60%以上は消防法対象 火気厳禁・保存量制約	100~200ppm	20~60ppm	30~200ppm	10~30ppm	50~200ppm 安全性・有効性を保全した形での調整は難しい		
除菌・消臭効果 (効果範囲・速さ)	◎	△(除菌) ×(消臭) 効果範囲が狭い	△ 効果速度が遅い	△ 効果速度が遅い	△ 効果速度が遅い	○	◎	△ 効果速度が遅い	△ 効果速度が遅い
金属への腐食性	◎ 幅広い場所で安心して使用できる 水とほぼ同等の腐食性	○	×	×	×	○	×	◎ 腐食性が強く機械類・貴金属等への影響から使用場所に制約が大。	◎
繊維・革製品 への影響 (変色・変質)	◎ 適正濃度で使用すればほぼ無い 衣類への直接噴霧可能	△	×	×	×	○	△ 適正濃度でも脱色・変色作用が強い。衣類への直接噴霧は限定的。	○	○
食品添加物の 適合性	◎ 直接噴霧・浸け洗い等々幅広く可能	◎	○	○	○	◎	×	○ 直接噴霧・浸け洗い等は不可	○
安定性・保存性	○	○	△	×	△	○	△	○	△
人・動物への 使用	◎ 厚労省の安全認定書もあり適正濃度で直接噴霧・浸け洗い可能。四肢の消毒も可能	○ 皮膚・傷口・粘膜質等への影響有	△	△	△	△	○ 濃度によっては可能と思えるが、直接噴霧・浸け洗い、四肢の消毒は不可	△	×
用途に応じた ppm,pH調整	可能	不可	不可	不可	不可	不可	ppmのみ可能		